

# こすもスマイル



63号 発行：小林市立病院 地域医療連携室 令和5年9月

～副病院長のあいさつ～



皆様には地域連携にご協力いただき、ありがとうございます。

南九州では台風や集中豪雨による災害にみまわれました。このような自然災害は日本列島のみならず、東アジアの各地で起こっているようです。また、連日の猛暑による熱中症の発症も多く見られます。

皆様の健康や安全をまもるために、防災対策や熱中症予防策は地域における協力や助け合いが大切であると思われます。

私は、小林市立病院で手術のための麻酔を担当しています。

手術を受けられる患者さんの多くが、高齢であったり、以前からの持病を持っておられたりします。患者さんが手術から順調に回復するためには、手術前のからだの状態の評価と適切な治療が大切です。服用されているお薬の麻酔や手術への影響を確認すること、麻酔や手術によるからだの各臓器への影響を最小限にすることも重要です。

手術からの早期の回復のためには、術後の痛みを軽減するための適切な疼痛管理、手術の傷のなおりの臓器機能の回復のための栄養の管理、リハビリテーションの施行が欠かせません。

患者さんの早期の回復を助けるために、手術中の麻酔管理だけでなく、各科の先生や看護師、管理栄養士、リハビリスタッフと協力し合っています。

術前、術中、術後の管理にたずさわるところで、地域医療の推進に協力したいと思っています。これからも、ご協力とご指導をよろしくお願いいたします。

小林市立病院 副病院長 麻酔科科長兼任 窪田 悦二

## 【理 念】

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

## 【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯(しんし)な姿勢で日々研鑽(けんさん)に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



# 整形外科紹介



今年の夏も暑かったですね。長い間猛威をふるった新型コロナウイルスも5類に移行し行動制限も解除されましたので、外出の機会も増えるものと思われます。コロナ感染や熱中症に気をつけつつ、楽しく健康的な日々をおくっていただけたら嬉しいです。

今回は、最近の当科の出来事について述べさせていただきます。

## ①大腿骨近位部骨折に対する早期手術

高齢者に多く、受傷前の日常生活に戻るため早期の手術が望ましい骨折です。早期とは言っても、以前は1週間以内というあいまいな基準でした。最近のガイドラインでは48時間以内の手術が推奨されています。術前待機期間がそれ以上になると、出血や下肢静脈血栓症、誤嚥性肺炎などの合併症が多くなり、果てには生命予後まで不良となるからです。

マンパワーが十分とは言えないなか、麻酔科や救急科の先生方や外来や手術室、病棟の看護師、レントゲン技師などの協力を得ながら受傷から48時間以内、できれば受傷当日に手術が行えるよう励んでいます。

## ②二次性骨折の予防

大腿骨近位部骨折を受傷し入院された患者さんに対して手術を行った後、早期に骨粗鬆症の治療を開始しています。以前から、骨折後の骨粗鬆症加療率が低く再骨折をきたすことが問題となっていました。

当院では、1人の患者さんに対して入院早期よりリハビリスタッフ、医療相談員、栄養士、薬剤師、医事など多職種が介入し、骨粗鬆症加療継続、移動能力改善、生活環境の整備 etc を通じて退院後の再骨折リスクを防ぐよう努力しています。

## ③岩佐 一真先生 赴任

昨年の木戸 義隆先生にかわり（宮崎市内の病院で頑張っています）、妻と息子とラグビーとお酒とバイクをこよなく愛するナイスガイ岩佐 一真先生が4月から赴任されました。

まずは2人でコツコツと頑張りたいと思います。

整形外科医長 上通 一師

# 診療情報管理室紹介



今回は診療情報管理室をご紹介します。

診療情報管理室は事務部内に組織されており、診療情報管理士2名と事務員1名の3名が在籍しています。主にDPCに係るコーディングチェック、データの入力や集計、統計、データ提出などの業務を行っています。

DPCとは「診断・処置・組み合わせ」の略で、3つの要素からなる診断群分類のことです。投薬、注射、検査等毎に計算する出来高算定方式と異なり、傷病名や診療内容に応じた1日あたりの定額を日数に応じて計算し、出来高部分をプラスして入院費を計算します。

当院は平成30年4月からDPC対象病院となり、DPC準備病院の期間を含めると7年目となりますが、DPCのルールも少しずつ変化し、提出するデータも増加しています。このデータは厚生労働省に提出されますが、患者さん個人を特定できないよう集計し、医療機関毎に公開されます。また、入院医療等を担う医療機関の機能や役割の分析・評価等に活用されています。

今後も適正なデータを提出するため、日々医療に関する知識を身につけ努めて参ります。

診療情報管理士 川越 真由美

# 栄養情報だより

臨床栄養室

「毎日を健康に過ごしたい」「元気で長生きしたい」と皆さん、日頃から体調管理に気をつけていることでしょう。

しかし、**食品の値上げ**…これは、私たちの健康にも影響しているのです。

## 食費の節約でいつの間にか低栄養！？

肉類や魚介類、卵類の購入が減ることだたんぱく質をはじめ、さまざまな栄養素が不足し、貧血など栄養状態の低下や筋肉量の減少、免疫力が低下するなど私たちの身体に悪い影響を与えているのです。



**減らしてはいけない食べ物を覚えましょう！！**



お菓子やジュースをひとつ減らして、これらの食品をひとつ選びましょう。

## 安い！簡単！レンジで作るかに玉風

〈材料〉 1人分 (予算：約50円)

卵…1個、かにかま…2本(15g)、ニラ…1本(10g)

濃口しょうゆ…小さじ1/3、ゴマ油…小さじ1/2、水…大さじ1

〈作り方〉

1. かにかまはほぐし、ニラは3cm程度にカットする。
2. 耐熱性の口の広めの器にすべての材料を入れ混ぜる。
3. ふんわりラップをして電子レンジ(500-600W)で約50秒加熱する。一度取り出し、箸で全体を混ぜ、もう一度ふんわりとラップをして電子レンジ(500-600W)で約30秒加熱する。(加熱が足りない時には10-20秒ずつ加熱する。)

〈栄養量〉 エネルギー120kcal たんぱく質9.3g 塩分0.9g



# 5 階病棟紹介

5階病棟は、病床数 54 床の消化器外科・腫瘍外科、救急科の急性期一般病棟です。大腸や胃、胆のうなど消化器疾患の手術を受ける患者さんや、手術前後の化学療法を行う患者さん、終末期を迎える患者さんがいらっしゃいます。

看護スタッフは、専門知識を活かした看護を行うために、化学療法チーム、ストーマチーム、救急チーム、緩和ケアチームの4つに分かれています。各チームは、カンファレンスを通して多職種で情報共有を行ったり、勉強会を開催しています。

## 救急チーム

私たち救急チームは、病棟スタッフ全員が急変時の対応を確実に実践できることを目標に、日々活動しています。

## 化学療法チーム

化学療法がスムーズに行われるよう、多職種と連携しながら情報共有をしています。また、外来看護師や薬剤看護師と協力し、副作用が出現した時など、早期に介入し症状緩和に向けて取り組んでいます。

## ストーマチーム

人工肛門を造設する患者さんに、術前から人工肛門についての説明を行っています。術後は患者さん 1 人 1 人に合った装具を選択し、退院に向けての指導を行っています。

## 緩和ケアチーム

緩和ケア認定看護師と情報共有を行いながら、終末期を迎える患者さんが少しでも安楽に過ごせるよう関わっています。

5 階病棟 主任看護師 餅原悦子

## スタッフのひとこと

まだまだ残暑が続く時期で、少々夏バテ気味ではないでしょうか。私は毎週のように子供と公園に行くのですが、暑さですぐ休憩してしまいます。

秋風とともに、はやく暑さが和らいでほしいですね。

秋といえば食欲の秋！たくさん美味しい物を食べて、みなさん元気をだしましょう。

医師事務作業補助者 三木 美咲

## 連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225 (直通)

FAX 0984-23-8226

Mail k\_hosp4@city.kobayashi.lg.jp